

に最大頻度があらわれている。つまり弱風の早朝におこる強い接地逆転に原因するものが最も多いことがわかる。悪天の濃煙霧は北高型の気圧配置によることが多く、この場合は濃煙霧の継続時間も長くなる。

3. 濃煙霧と霧日数の曜日性について

昭和34年に発現した56回の濃煙霧と17回の霧について、その曜日性を調べた結果は第5表のとおりである。

第5表 濃煙霧と霧の発生の曜日 (昭和34年)

濃煙霧	曜日回数	月	火	水	木	金	土	日	計
		10	8	9	9	10	9	1	56

霧	曜日回数	月	火	水	木	金	土	日	計
		4	2	2	3	2	1	3	17

濃煙霧については、はっきり曜日性があらわれており、日曜の発生は56回のうち1回にすぎない。濃煙霧が連日発生している場合に日曜になると発生しないで、月曜から現われる例がいくつかある。また祭日についても、発生は見られない。これは作業日と濃煙霧の発生が非常に深い関連をもっていることを意味している。霧については、このような曜日性がない。

さらに、作業日との関連を見るために、昭和26年から35年までの10カ年について、年初めと年末の発生傾向を調べたので第6表である。

第6表 濃煙霧の年初めの発生日 (昭和26年~35年)

月日	1月1日	2	3	4	5	6	7	8	9
回数	2	0	1	0	4	1	0	1	1

1月5日に発生回数が増えており、ここでも作業日の影響が現われている。年末には、このような傾向はなかった。また、霧については、この傾向は全くなかった。

なお、東京の Smog については、ひきつゞき調査をしているのでこの報告を第1報とする。

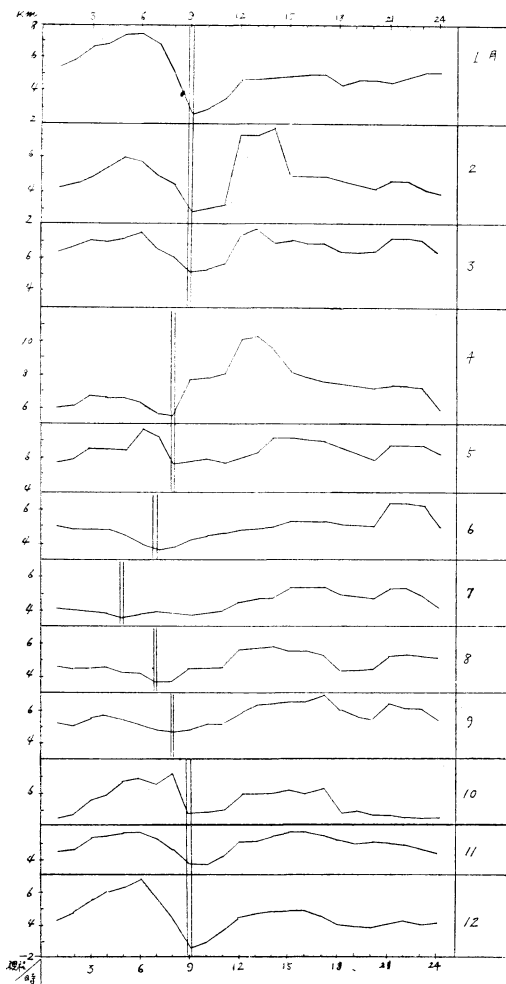
最後に、大阪の資料を提供願った、大阪管区気象台の中野技官に深謝する。

気象の英語 (41)

44. 時の長さに関する前置詞 for, during, through, in

時の長さを云うには for を使う。たとえば5日間=for five days. 休暇中, 休暇中中=during the vacation. のように。継続中におこる出来事には during を使う。

1961年5月



第7図 視程の日変化 (東京 昭和34年)

追記

マスコミ関係ではスモッグ, スメーズの区別をしないで、一般に視程の悪い汚染大気をスモッグと言っている。これを明確にせよとの声があったがスモッグは一般大衆にとけこんでいる流行語であるから両方共通してつかってもよいのではないかと私は考えている。しかし、学問的には明確にしておく必要がある。

また、ある期間の初めから終りまで、を表わす時には、through, または強くいう時には throughout が用いられる。たとえば through the summer=throughout the summer=夏中ぶっとおし、また「3年(間)に1回」などでは、in を使い、once in three years とする。